

血するなどの症状があるので、鼻血がきっかけとなって病気が発見されることはめったにないと考えていいでしょう。

また、鼻のがんのために、2~3カ月にもわたってタラタラと鼻血が続くことがあります。そもそも鼻のがんそのものが少ないので、これもまれなケースといえます。

いずれにしても、両方の鼻から同時に出血したり、歯ぐきなど他の場所からの出血がある時、また、鼻をかんだ時に少量の血が混じる状態が長く続くような時は、単なる鼻血ではなく何らかの異常が考えられるので、早めに耳鼻科を受診しましょう。

子どもにもまれに鼻の腫瘍が見られますが、そういう時は、まず鼻づまりが主症状としてあり、それに加えて鼻血が出て、顔が少しはれてきます。このように、鼻づまりや顔の腫れといっしょに鼻血が出る時は要注意なので、早めに専門医に診てもらいましょう。



粘膜を焼き固める治療

鼻血がひんぱんに出ると、仕事や日常生活にも支障が出てきます。自分で応急処置をくり返しているうちに、血管が丈夫に

写真3 鼻血が出た時は、前かがみの姿勢で、親指大の脱脂綿を詰め、小鼻(鼻翼)を強くつまむようにして15分ほど押さえ続ける

なって出血しにくくなる人もいますが、「またいつ起きるかもしれない」という不安を抱えながら毎日を送るのは嫌という人は、いっそのこと治療したほうがいいかもしれません。

鼻血の治療は、キーゼルバッハの粘膜を焼き固める「鼻腔粘膜焼灼術」という方法が一般的です。これは、麻酔をした上で、薬剤や電気メス、半導体レーザーなどで熱を加えて、血管の表面を焼いて出血しにくくするものです(写真3)。どのくらいの面積を焼くかによっても違いますが、時間はほんの数分で、麻酔してから治療を終えるまでの時間は30分くらいで

す。保険もきき、自己負担額は3,000円程度です。副作用もありません。

焼いたあとは、また新たな血管が出てきますが、このように再生した血管は出血しにくいものです。

鼻血には迷信も多いものです。たとえば、チョコレートやピーナツを食べ過ぎると鼻血が出るといわれますが、科学的な根拠があるわけではありません。カフェインや刺激物によって起きるといっても、カフェインで粘膜がうっ血したり、刺激物を食べて顔をしかめた時に鼻の粘膜が大きく動いて血管を刺激するために鼻血が出るというのが真相でしょう。いずれにしても、その程度のささいなことで鼻血が出るのは異常なことなので、治療したほうがいいかもしれません。要するに、食べ物によって鼻血が出るというのは、あまり根拠のない話とと思っていいでしょう。

いずれにしても、鼻血がよく出る人は、一度耳鼻科で自分の鼻の粘膜を診てもらいたいでしょう。もちろん、鼻炎などがあっていつも鼻がぐずぐずしている人は、それらの基本疾患をちゃんと治すことが先決です。

PROFILE

笠井 創 (かさい はじめ)

- 1977年 千葉大学医学部卒業
同大学耳鼻咽喉科学教室入局
千葉大学病院手術部麻酔科にて研修
千葉労災病院耳鼻咽喉科にて研修
- 1983年 千葉大学医学部大学院卒業
医学博士
国保君津中央病院耳鼻咽喉科医長
- 1985年 国立がんセンター病院頭頸部外科医員
- 1988年 国家公務員等共済組合連合会横須賀共済病院耳鼻咽喉科医長
千葉大学医学部耳鼻咽喉科非常勤講師兼任
- 1990年 耳鼻咽喉科気管食道科笠井クリニック(横浜)開設
- 1999年 笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室開設

